

令和6年度病虫害発生予報第5号（9月予報）概要表

令和6年8月27日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（穂いもち）		やや少
（2）紋枯病		並
（3）セジロウンカ		多
（4）斑点米カメムシ類		多
（5）コブノメイガ		並
<u>2 大豆</u>		
（1）べと病		やや多
（2）食葉性チョウ目幼虫		多
（3）ダイズサヤタマバエ		並
（4）シロイチモジマダラメイガ		並
（5）吸実性カメムシ類		やや多
<u>3 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）うどんこ病		多
（3）ハダニ類		多
（4）果樹カメムシ類		多
（5）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		多
<u>4 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）うどんこ病		並
（2）オオタバコガ		多
（3）ハダニ類		やや多
（4）アザミウマ類		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 きゅうり (夏秋栽培)</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		やや少
(3) コナジラミ類		並
(4) アザミウマ類		並
<u>6 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) 黒斑病		並
(2) ベと病		並
(3) 軟腐病		多
(4) シロイチモジヨトウ		多
(5) ネギアザミウマ		多
(6) ネギハモグリバエ		並
<u>7 いちご (本ぼ)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		並
<u>8 茶</u>		
(1) 炭疽病		やや多
(2) チャハマキ (第3世代幼虫)		並
(3) チャノコカクモンハマキ (第3世代幼虫)		並
(4) チャノホソガ (第3世代幼虫)		やや少
(5) チャノミドリヒメヨコバイ		並
(6) カンザワハダニ		やや多
(7) チャノキイロアザミウマ		やや多
(8) クワシロカイガラムシ (第3世代成虫)	やや遅	

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 6 年度病虫害発生予報第 5 号（9 月予報）

令和 6 年 8 月 27 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5 月下旬以降の移植）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (穂いもち)	やや少	○8 月中旬の発生量：－ □県予察ほ場の葉いもちの発生量：少（－） □8 月中旬の葉いもちの発生量：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・上位葉に葉いもちの病斑が多いほど、穂いもちが発生しやすいため、注意深く観察して防除の有無や回数を判断する。
紋枯病	並	○8 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・上位葉の葉鞘に病斑を確認した場合は、収穫前日数に注意して、薬剤による防除を速やかに実施する。
セジロウンカ	多	○8 月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・本田に定着しているため、株元をよく観察し、発生が多い場合は薬剤による防除を実施する。
斑点米 カメムシ類	多	○8 月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・7 月 8 日に発表した「注意報第 5 号」（ 参照 3 ）を参考に適期防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
コブノメイガ	並	○8 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・止葉が食害されると登熟に悪影響を及ぼすため、本田での発生状況を確認し、薬剤による防除を実施する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 3：令和 6 年度病虫害発生予察注意報第 2 号「イネ斑点米カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-5.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 大豆

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや多	○8月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：無(－) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(＋)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・在来系統や県奨励品種の「里のほほえみ」は本病に罹病しやすいため、早期発見に努める。
食葉性 チョウ目幼虫 (ハスモンヨトウ) オオタバコガ シロイチモジ ヨトウ	多	○8月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：並(±) □フェロモントラップによる誘殺数：やや多(＋) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・シロイチモジヨトウについては、8月8日に発表した「注意報第7号」(参照4)を参考に適期防除を実施する。 ・ハスモンヨトウについては、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ダイズサヤ タマバエ	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・開花終期～莢伸長期(開花始めから1～2週間後)を目安に防除を実施する。
シロイチモジ マダラメイガ	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・子実肥大初期～中期(開花期20～40日後)を目安に、薬剤による防除を実施する。
吸実性 カメムシ類	やや多	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや多(＋) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・ミナミアオカメムシ及びカメムシ類については、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・播種時期により生育状況が異なるため、ほ場を注意深く観察し、発生を確認したら速やかに防除対策を実施する。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 7 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去 10 年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去 10 年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 なし

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○8月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・見つけ次第摘除し、園外で処分する。
うどんこ病	多	○8月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・まん延による早期落葉を避けるため、発生動向に注意して防除を実施する。
ハダニ類	多	○8月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(+)	・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。
果樹カメムシ類	多	○8月中旬の発生量：多 □予察灯による誘殺数：多(+) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(+)	・7月12日に発表した「注意報第6号」(参照5)を参考に適期防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイムシ類 (ナシヒメシンクイ)	多	○8月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多(+) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。 ・特に「豊水」や「あきづき」等での被害の発生が懸念されるので注意する。

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照5：令和6年度病虫害発生予察注意報第6号「果樹全般、果樹カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-6.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

4 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○8月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
オオタバコガ	多	○8月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	やや多	○8月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	
アザミウマ類	やや多	○8月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	やや少	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・ハウス内が乾燥しないよう、温湿度管理に注意する。
コナジラミ類	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 ネギ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	並	○8月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	
べと病	並	○8月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（-）	
軟腐病	多	○8月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を再確認し地表水の早期排水を行う。 ・風水害後は天気が回復次第、速やかに薬剤防除を実施する。
シロイチモジヨトウ	多	○8月中旬の発生量：やや多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・8月8日に発表した「注意報第7号」（参照8）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギアザミウマ	多	○8月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。
ネギハモグリバエ	並	○8月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 8：令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 7 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（本ぼ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・育苗中に発病した苗およびその周辺の苗は定植しない。
ハダニ類	並	○8月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い（+）	・育苗中に発生が見られたほ場では、定植前の苗の防除を徹底して、本ぼへ持ち込まないようにする。 ・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶 (1/2)

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	やや多	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：やや少 (-) □気象予報：気温は高い、降水量 は多い(+)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
チャハマキ (第3世代幼虫)	並	○8月中旬の発生量：やや少 □県予察灯での第2世代成虫の 誘殺数：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量 は多い(±)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を 対象として防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ (第3世代幼虫)	並	○8月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場での第2世代成虫 の誘殺数：やや多(+) □気象予報：気温は高い、降水量 は多い(±)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫 を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第3世代幼虫)	やや少	○8月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる第 2世代成虫の誘殺数：やや少 (-) □気象予報：気温は高い、降水量 は多い(±)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫 を対象として防除を実施する。
チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	○8月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量 は多い(±)	・8月6日に発表した「病害虫防除情報」(参照8)を参考に適期防除を実施する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・増加期に当たり、急増することがあるため発生状況に注意する。 ・少雨で乾燥した場合は発生が助長されるため、発生状況に注意する。

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照8：病害虫防除情報「チャのチャノミドリヒメヨコバイについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20240806cha.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶 (2/2)

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
カンザワハダニ	発生量 やや多	○8月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・9月は増加期にあたり、急増することがあるため発生状況に注意する。
チャノキイロアザミウマ	発生量 やや多	○8月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：多(+) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(+)	
クワシロカイガラムシ(第3世代幼虫)	発生時期 やや遅	■8月26日現在、有効積算温度(アメダスデータ青梅)による第3世代幼虫ふ化最盛日の予測は9月13日(平年9月10日)：やや遅(-) ■気象予報：気温は高い(-)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、ふ化幼虫期を中心とした短期間なので、関係機関から発表される最新の防除時期予測に留意する。
【共通注意事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム\(農林水産省\)](https://pesticide.maff.go.jp/)から検索できます。
農薬登録情報提供システム(農林水産省) <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —
(令和6年5月1日～8月31日)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

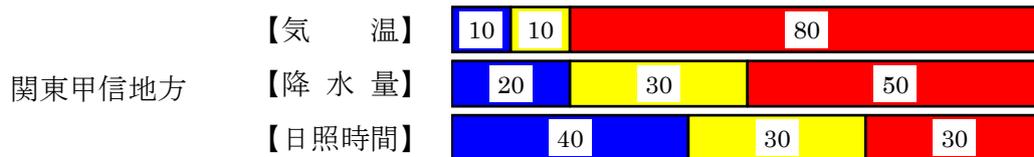
(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和6年8月22日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

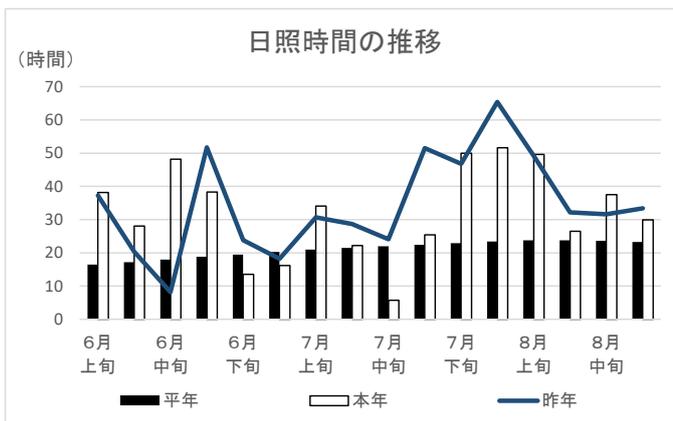
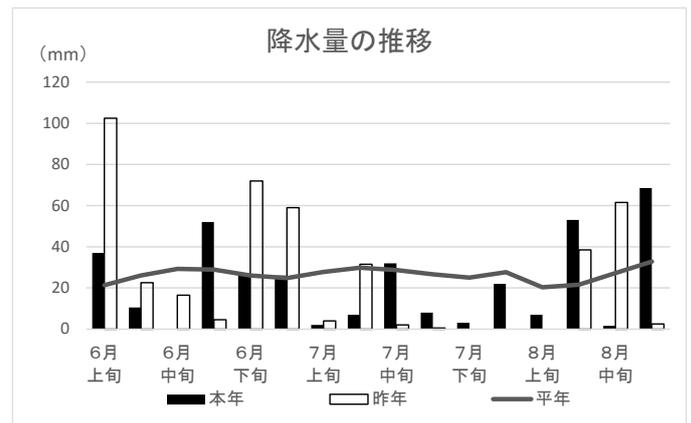
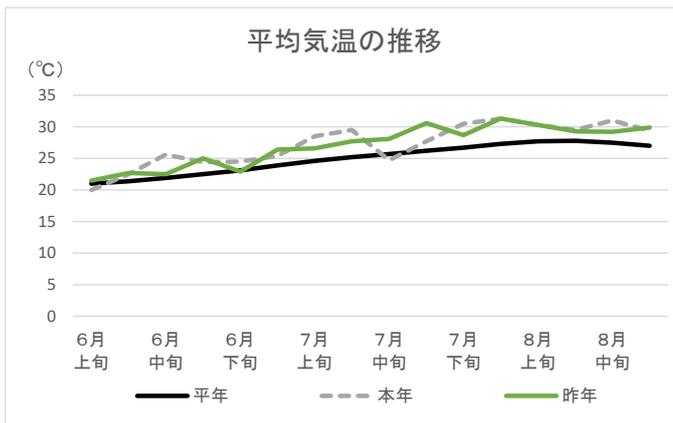
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。
- ・湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>